

(3)

じょうえつ経済

キーパーソン

コロナ時代を見据え

「地元で働く魅力」発信

「今までの『当たり前』が寸断されてしまい、手探り状態の部分もある。ただ、手をこまねいていけない。制約がある中



上越商工会議所青年部会長・大嶋正寛さん

上越商工会議所
青年部会長

おしま まさひろ
大嶋 正寛さん(44)

「今までの『当たり前』が寸断されてしまい、手探り状態の部分もある。ただ、手をこまねいていけない。制約がある中

「今までの『当たり前』が寸断されていくのは経営でも青年部活動でも同じこと」と話す。

任期の2年間は、延期された東京五輪・パラ五輪(2021年7〜8月)や北陸新幹線の敦賀延伸(23年春)といった交流人口拡大の好機となるイベントが予定されている。「北陸新幹線と東海道・山陽新幹線がほぼつながることで、大きなサークルが生まれる。上越にとって好機だ。一方で新型コロナウイルスの感染拡大の影響に見られる通り、大規模な移動やインバウンド頼みはリスクが伴う。足元や隣県との連携は一層大切になる」

事業計画には人工知能(AI)や通信規格「5G」の研究、「上越で働くことの魅力」を市内の高校生に伝える活動などを盛り込んだ。背景には市の人口が減少し、労働力不足が深刻になることへの強い危機感がある。

「人がいない中で事業を続けていくためにICT(情報通信技術)を学ぶ。一方で人口減少に歯止めを掛けることも必要。東京へ出て行かなくても、ここで同じ水準の仕事ができていい。それを知ってもらいたい。われわれがやるべきことをやって、(若者に上越で働くことを)選んでもらうことだ」